

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

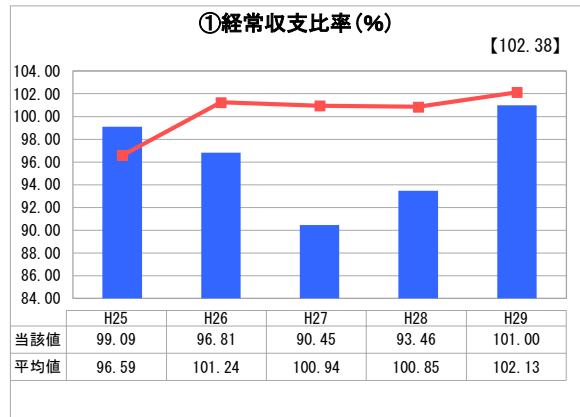
兵庫県 小野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	46.04	52.56	84.10	2,732

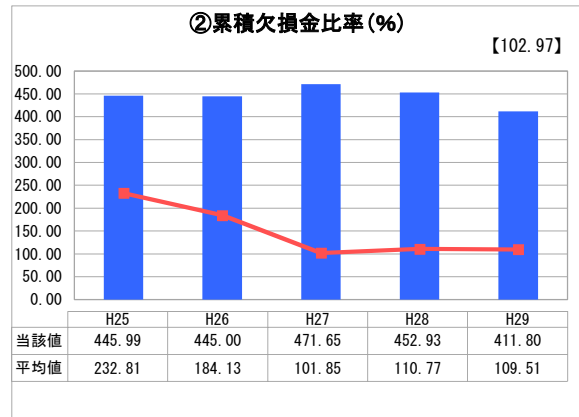
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
48,941	92.94	526.59
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
25,654	11.01	2,330.06

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成29年度全国平均

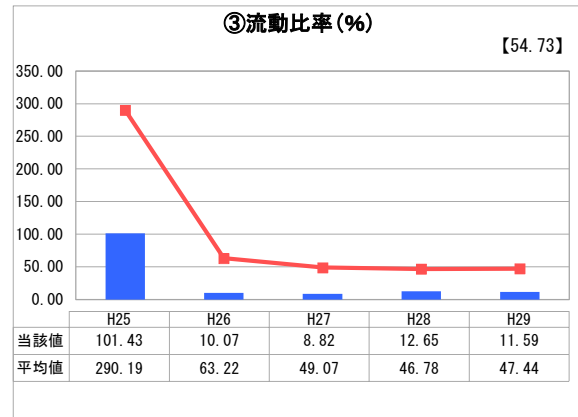
## 1. 経営の健全性・効率性



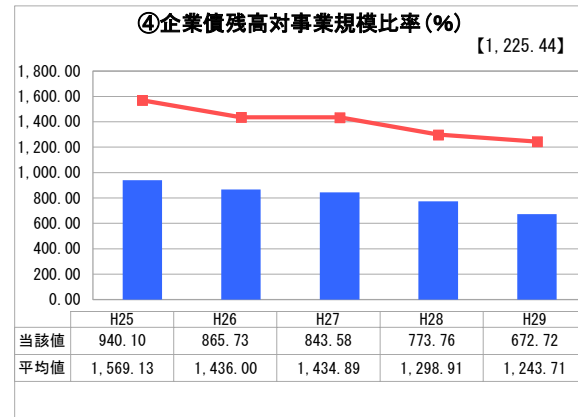
「経常損益」



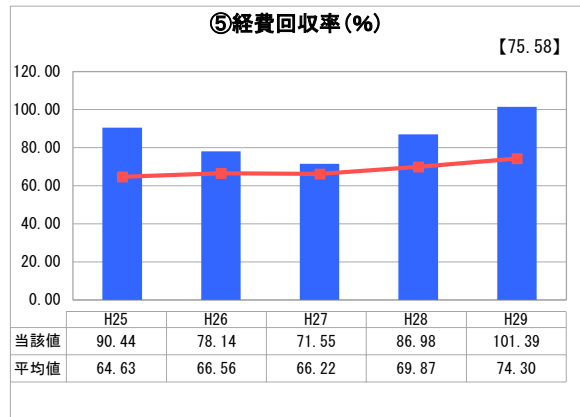
「累積欠損」



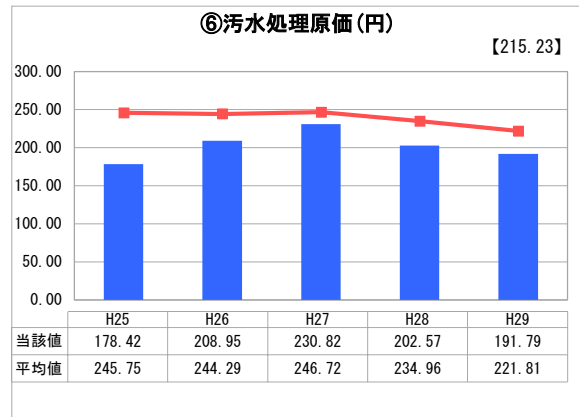
「支払能力」



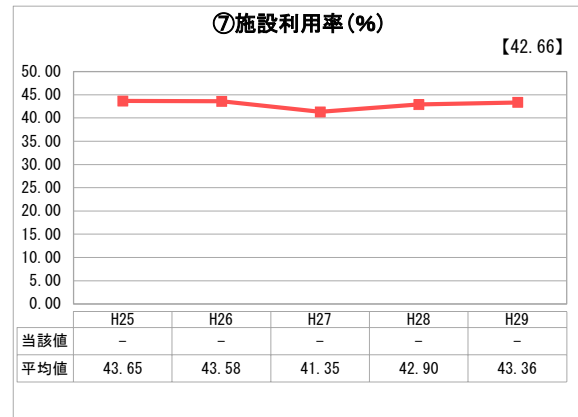
「債務残高」



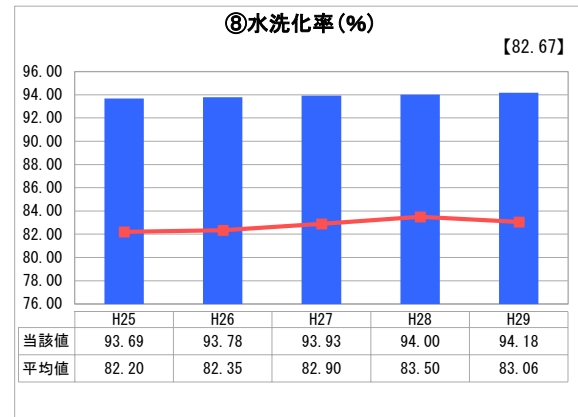
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

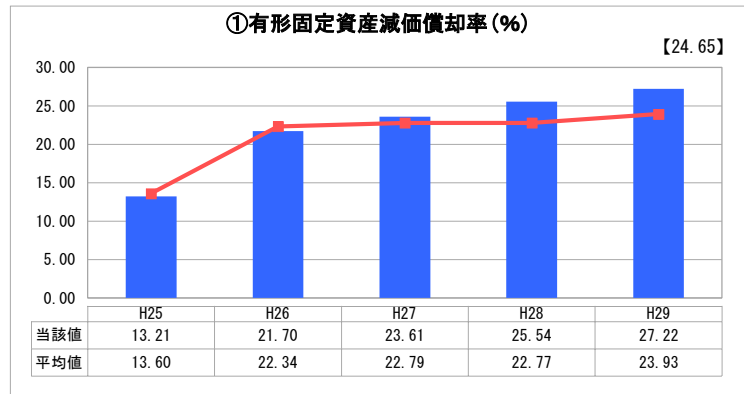


「施設の効率性」

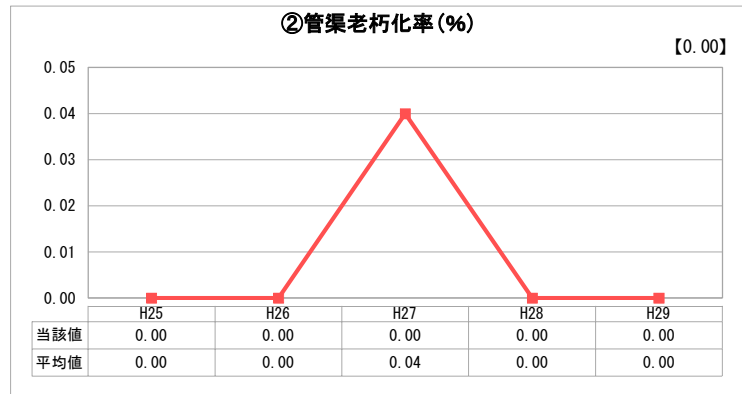


「使用料対象の捕捉」

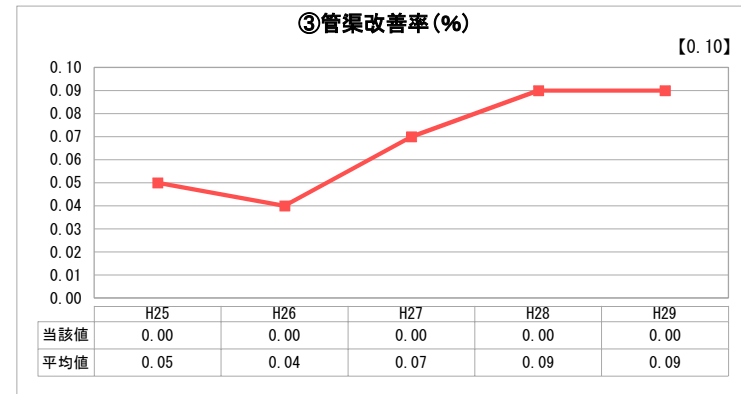
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率  
平均値を下回っているものの、使用料改定による効果で増加傾向にあり、収支は改善されてきている。今後も経費の削減に努め、健全経営を続けていく。
- ②累積欠損金比率  
平均値を上回っている。今後も経営改善を図り累積欠損金の削減に努める。
- ③流動比率  
会計制度の見直しにより、当年度償還金が流動負債に分類されたため、数値が極端に小さくなっている。
- ④企業債残高対事業規模比率  
平均値を大きく下回っている。投資については必要性を十分に検討した上で計画的に実施していく。
- ⑤経費回収率  
100%を上回っており、使用料改定もあり増傾向にある。今後も経費の削減に努めつつ、使用料の見直しについては随時検討を行っていく。
- ⑥汚水処理原価  
平均値を下回っている。指標は今後増加傾向にあり、維持経費の削減に努める必要がある。
- ⑦施設利用率  
処理施設を保有していない。
- ⑧水洗化率  
平均値を大きく上回っており、公共用水域の水質保全が保たれている。更なる向上を促すため100%を目指した取り組みを推進していく。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率  
下水道整備から日が浅く、減価償却は進んでいないが、平均値とほぼ同様の推移となっている。
- ②管渠老朽化率  
管渠は耐用年数を経過していない。
- ③管渠改善率  
管渠の改善（更新・改良・維持）は行っていない。管渠の改善については必要性を十分に検討し、計画的に進めていく。

### 全体総括

使用料改定により、経常収支比率、累積欠損金比率は改善傾向にある。今後も経費の削減に努め、健全経営を継続していく。  
管渠については耐用年数を経過しておらず、更新投資を急ぐ必要はないものの、長寿命化を含めた各種の投資については、費用対効果等を含めて総合的に判断しながら計画的に進めていく。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。  
※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率、管渠老朽化率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。